令和４年（2022年） りんご病害虫防除・栽培暦

JAごしょつがる
JAごしょつがるりんご共防連

農薬の使用にあたっては、使用時期や年間使用回数などの「農薬使用基準」を守る。また、事前に周辺住民に対し、農薬の散布日時や使用者の連絡先等を十分な時間的余裕を持って知らせる。

月	回数 散布量	散布時期	対象病害虫	基準薬剤	倍数	1,000ℓ当たりの薬量	安全使用時期（収穫前日数）	散布履歴記入欄 散布した薬剤、倍数を確認して□に✓を記入しましょう。 （他に散布した薬剤は空欄に記入する。）
4月	① 300ℓ	ふじの展葉 1週間後 	モニリア病／黒星病 腐らん病 リンゴハダニ ハマキムシ類 クワコナカイガラムシ キンモンホソガ ギンモンハモグリガ	1. マシン油乳剤 2. ダーズバンDF 3. ベフラン液剤	200倍 3,000倍 1,000倍	5ℓ（$\frac{1}{2}$缶） 167ｇ×２袋 500ml×２本	展葉期 45日前 展葉期	薬剤 倍数 散布月日 月 日 10ａ当たりの散布量 ℓ
5月	② 320ℓ	ふじの 開花直前 （５月上旬）	黒星病 腐らん病 うどんこ病 モニリア病 ミダレカクモンハマキ	1. 展着剤 2. カナメフロアブル 3. アタプロンSC 又はロムダンフロアブル	4,000倍 4,000倍 3,000倍	250ml×１本 250ml×１本 335ml×１本	前 日 ７日前 前 日	薬剤 倍数 散布月日 月 日 10ａ当たりの散布量 ℓ
	③ 350ℓ	ふじの 落花直後 （５月中旬）	黒星病／腐らん病 うどんこ病／黒点病 斑点落葉病 ミダレカクモンハマキ リンゴカクモンハマキ リンゴハダニ	1. 展着剤 2. ミギワ20フロアブル 3. ジマンダイセン水和剤 4. アタプロンSC 又はロムダンフロアブル	4,000倍 600倍 2,000倍 3,000倍	125ml×２本 1.67kg×１袋 250ml×１本 335ml×１本	前 日 30日前 ７日前 前 日	薬剤 倍数 散布月日 月 日 10ａ当たりの散布量 ℓ
6月	④ 420ℓ	ふじの落花 10日後頃 （５月下旬）	斑点落葉病／黒星病 うどんこ病／黒点病 腐らん病 すす斑・すす点病 シンクイムシ類 ギンモンハモグリガ ハダニ類	1. 展着剤 2. ユニックス顆粒水和剤 3. チオノックフロアブル 4. スプラサイド水和剤 5. クレミクス 又はバイカルティ	2,000倍 500倍 1,500倍 333倍 1,000倍	500ｇ×１袋 ２ℓ×１本 667ｇ×１袋 ３kg×１袋 １kg×１袋	14日前 30日前 30日前	薬剤 倍数 散布月日 月 日 10ａ当たりの散布量 ℓ
	⑤ 500ℓ	ふじの落花 20日後頃 （６月上旬）	斑点落葉病／黒星病 うどんこ病／黒点病 腐らん病 すす斑・すす点病 シンクイムシ類 アブラムシ類 ギンモンハモグリガ ハダニ類	1. 展着剤 2. デランフロアブル 3. エルサンボ水和剤 又はサイアノックス水和剤 4. クレミクス 又はバイカルティ	1,500倍 1,000倍 1,000倍 1,000倍 333倍 1,000倍	333ml×２本 １kg×１袋 １kg×１袋 ３kg×１袋 １kg×１袋	60日前 45日前 14日前	薬剤 倍数 散布月日 月 日 10ａ当たりの散布量 ℓ
	⑥ 500ℓ	ふじの落花 30日後頃 （６月中旬）	斑点落葉病／黒星病 黒点病／腐らん病 すす斑・すす点病 炭そ病／褐斑病 輪紋病／ハダニ類 モモシンクイガ ナシヒメシンクイ アブラムシ類	1. 展着剤 2. ラビライト水和剤 3. モスピラン顆粒水溶剤 4. クレミクス 又はバイカルティ	500倍 4,000倍 333倍 1,000倍	１kg×２袋 250ｇ×１袋 ３kg×１袋 １kg×１袋	30日前 前 日	薬剤 倍数 散布月日 月 日 10ａ当たりの散布量 ℓ
	⑦ 500ℓ	ふじの落花 40日後頃 （６月下旬）	斑点落葉病／黒星病 黒点病／輪紋病 すす斑・すす点病 炭そ病／褐斑病 モモシンクイガ ナシヒメシンクイ ハダニ類 アブラムシ類 ギンモンハモグリガ	1. 展着剤 2. パスポート顆粒水和剤 3. ダイアジノン水和剤 4. エコマイト顆粒水和剤 ※1 5. クレミクス 又はバイカルティ	1,000倍 1,000倍 2,000倍 333倍 1,000倍	500ｇ×２袋 500ｇ×２袋 250ｇ×２袋 ３kg×１袋 １kg×１袋	45日前 30日前 ７日前	薬剤 倍数 散布月日 月 日 10ａ当たりの散布量 ℓ
7月	⑧ 500ℓ	７月初め	斑点落葉病／黒星病 炭そ病／褐斑病 輪紋病／ハダニ類 すす斑・すす点病 モモシンクイガ ギンモンホソガ ナシヒメシンクイ ギンモンハモグリガ	1. 展着剤 2. オキシンドー水和剤(80) 又はキノンドー顆粒水和剤(80) 3. アーデントフロアブル	1,200倍 1,000倍 2,000倍	625ｇ×１袋 500ｇ×２袋 250ｇ×２本	14日前 14日前 前 日	薬剤 倍数 散布月日 月 日 10ａ当たりの散布量 ℓ
	⑨ 500ℓ	７月半ば	斑点落葉病／褐斑病 黒星病／ハダニ類 炭そ病／褐斑病 すす斑・すす点病 輪紋病 モモシンクイガ リンゴカクモンハマキ ナシヒメシンクイ ギンモンハモグリガ	1. 展着剤 2. オキシンドー水和剤(80) 又はキノンドー顆粒水和剤(80) 3. ベンレート水和剤 又はトップジンM水和剤 ※2 4. フェニックスフロアブル 又はサムコルフロアブル	1,200倍 1,000倍 3,000倍 1,500倍 4,000倍 5,000倍	625ｇ×１袋 500ｇ×２袋 333ｇ×１袋 333ｇ×２袋 250ml×１本 200ml×１本	14日前 14日前 前 日 前 日 前 日 前 日	薬剤 倍数 散布月日 月 日 10ａ当たりの散布量 ℓ
	⑩ 500ℓ	７ 月 末	斑点落葉病／褐斑病 黒星病／輪紋病 炭そ病／褐斑病 輪紋病／ハダニ類 すす斑・すす点病 キンモンホソガ ハダニ類 モモシンクイガ ナシヒメシンクイ クワコナカイガラムシ	1. 展着剤 2. ダイパワー水和剤 3. ダントツ水溶剤 4. （カルシウム剤）	1,000倍 4,000倍	500ｇ×２袋 250ｇ×１本	前 日 前 日	薬剤 倍数 散布月日 月 日 10ａ当たりの散布量 ℓ
8月	⑪ 500ℓ	８月半ば	斑点落葉病／黒星病 炭そ病／褐斑病 輪紋病／ハダニ類 すす斑・すす点病 モモシンクイガ ナシヒメシンクイ ギンモンハモグリガ	1. 展着剤 2. イカズチWDG 3. コロマイト乳剤 ※3 4. アリエッティC水和剤 5. （カルシウム剤）	1,500倍 1,000倍 800倍	333ｇ×２袋 500ml×２本 1.25kg×１袋	前 日 前 日 前 日	薬剤 倍数 散布月日 月 日 10ａ当たりの散布量 ℓ
	⑫ 500ℓ	８ 月 末	斑点落葉病／黒星病 炭そ病／褐斑病 輪紋病／ハダニ類 すす斑・すす点病 モモシンクイガ ナシヒメシンクイ ギンモンハモグリガ	1. 展着剤 2. ダイパワー水和剤 3. デリゲートWDG 4. （カルシウム剤）	1,000倍 10,000倍	500ｇ×２袋 100ｇ×１袋	前 日 前 日	薬剤 倍数 散布月日 月 日 10ａ当たりの散布量 ℓ
9月	特別散布 500ℓ	９月 15日頃	すす斑・すす点病	1. 展着剤 2. ストライド顆粒水和剤 又はオーソサイド水和剤	1,500倍 800倍	333ｇ×２袋 1.25kg×１袋	前 日 前 日	薬剤 倍数 散布月日 月 日 10ａ当たりの散布量 ℓ

発生に応じてアブラムシ剤を加用

病害虫防除上の注意

マメコバチの管理

ダーズバンを散布する場合はマメコバチに対して影響を及ぼすので、散布時は園地内に巣箱を置かないこと。また、薬剤散布が終わった日の２～３日後に巣箱から出し、園地に設置する。

キンモンホソガ・ギンモンハモグリガ対策

① 開花前から落花後幼果頃の間に殺バヤを切る。
② 密植放任園などが多かった場合は、展葉１週間後にノーモルト4,000倍又はデミリン4,300倍を使用する。

モニリア病対策

① 展葉１週間後頃に薬剤の防除上最も重要な時期なので、薬剤散布は遅れず適期に行う。
② 降雨は、実質的には見つけ次第園内の取り、土中に埋める処理する。

うどんこ病対策

白い粉で覆われて奇形化した花そのや葉そのは見つけ次第、枝ごと切り取って処分する。また、発生の多い園地では落花２日後頃に「ユニックス顆粒水和剤4,000倍」を使用する。

斑花昆虫保護

殺花原料及び落花直後はＢＴ剤又はＩＧＲ剤の同一薬剤を連続散布する。

黒星病対策

① 被害落葉はかき寄せるなどして処分する。病原菌の密度を下げるため、被害葉・被害果は袋掛前に除去する。

②ふじの展葉一週間頃から落花40日後頃までは散布間隔を10日以内とし、基準散布との間に降雨が見込まれる場合は降雨前に、【チオノックフロアブル500倍】などの特別散布を実施する。なお、ＳＤＨＩ剤【カナメフロアブル】、【ミギワ20フロアブル】、ＡＰ剤【ユニックス顆粒水和剤】は薬剤耐性の発達が懸念されるため、年１回の使用とする。

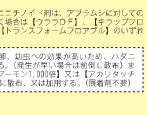
③ **降雨前散布を徹底し、散布ムラが無いよう基準量を丁寧に散布する。**

クワコナカイガラムシ対策

① 薬剤散布だけに頼ることなく、樹皮剥り、バンド巻きなど耕種的防除に努める。
② 発生の多い園地では、展葉１週間後頃にアプロードフロアブル（年２回まで）を追加する。また、落花10日後頃と20日後頃、さらに７月下旬と８月上旬に防除徹底による薬剤防除を行う。

◇バンド巻きによる防除

重主様などと大体に幹10cm程度のバンドを、樹際度をっちりと巻いて成虫の潜伏、産卵場所を与える。その後、バンドを除去し、焼却する。
※バンド巻きをしてもその主な効果しかし、取り外す作業を怠ると、むしろ増やす結果になるので必ず取る。



〈実施時期〉
1回目は、５月下旬に巻き付け。
７月中旬に除去する。２回目は８月中旬に巻き付け、収穫後～翌年の５月上旬までの間に防除する。
１園目のバンド防除時に２園目のバンドを用いてもよい。

クシミウスは作物が古くなるので、隣接作物がある場合は、バイカルティを使用する。

斑点落葉病対策

① ５月下旬から６月下旬まで定期的に防除する。
② ７月以降急増の恐れがある場合は基準薬剤に炭リオキシンＡＬを使用する。

有袋果のすす病対策

薬剤散布後５日以内に袋掛けを行う。また、５日以上間隔が開いた場合は、オーソサイド水和剤などによる薬剤防除を実施する。

アブラムシ類対策

近年モスピランやジントリ等のネオニコチノイド剤は、アブラムシに対しての効果が低下しているため、特定が難しい場合は【アクラロ５Ｆ】、【ネクサスフロアブル】、【コルト顆粒水和剤】【トランスフォームフロアブル】のいずれかを使用する。

※１ ユニマイト顆粒水和剤は、幼虫への効果が高いため、ハダニ発生初期の散布を推奨する。成虫が多い場合は卵期（散布）まで、成虫がいる場合は【アーデント、1,000倍】又は【アカリタッチ乳剤2,000倍】を発生初期に散布、又は加用する。（展着剤不要）

炭そ病対策

① リンゴ園周辺のイヌビエカシワやくるみ類などは、伝染源になるので注意する。また、発病葉は見つけ次第園内に埋め取り、土中に埋める。
② 発生の多い雨や多湿が懸念される園地は、６月中旬から７月末までの基準薬剤に加えてラビライト水和剤、有機銅剤（オキシンドー、キノンドー）、オキシラン水和剤、パスポート顆粒水和剤、のいずれかを選択する。また、８月半ばなど８月末はオーソサイド水和剤80gr＋ベフラン液剤1,500倍を使用する。

輪紋病（いぼ皮病）対策

① 輪紋病のいぼ皮病は枝くぼり型ってトップジンMペーストを塗る。
② いぼ皮病が多発している園地では、６月中旬から８月末まで有機銅系（オキシンドー、キノンドー）又はオキシラン水和剤を散布する。（ただし、７月末以降は果面汚染に注意する。）

褐斑病対策

※２ 前年の発生が多かった園地では、【ベンレート水和剤3,000倍】又は【トップジンM水和剤1,500倍】を使用する。また、７月半ばに殺菌二剤やアブラムシ剤を使用する場合は、混用する薬剤数が多くなるため、約10日前に散布する。

ハマキムシ・シャクトリムシ対策

コカクモンハマキや、シャクトリムシの発生が多い園地では、ＢＴ剤又はデリゲートＷＤＧを散布する。

※３ ダニの発生がない場合は次回へ入れる。また、ダニの種類を確認し、効果がある剤を選択する。

特別散布（すす斑・すす点病対策）

前年発生が多い園地や９月中旬に着果が見込まれる場合は、中・晩生種の袋掛果を対象に９月15日頃、すす斑・すす点病に効果があるいずれかの薬剤を散布する。また、スコアイド顆粒水和剤又はオーソサイド水和剤を使用することで、すす斑・すす点病防除の他に、着果前の秋季感染の防除効果が期待できる。

〈注意〉
①ダニコアフロアルはユニックス顆粒水和剤と殺虫剤との３種混用で変色を防ぐ効果があるため、混用を避ける。
②ベフラン液剤、アリエッティC水和剤は薬後に適合する。

主な栽培管理

４月

整枝剪定
1. 樹勢の強弱や作業状況など、りんご樹の状況をよく観察し把握しましょう。
2. 日光の当たる高い枝を多く着けるように心がける。
3. 小玉をつなくするために、ハサミを使って徹底的に整える。
4. 病気も病予防のため、早めに切り上げを実施する。

粗皮削り
腐らん病の早期発見、越冬害虫の潜伏場所、駆除剤（ハ（ほ皮病）の発見等のため実施する。

消雪促進
積雪前等を散布し消雪を早め、園地を乾燥させる。

園地の清掃
黒星病、モニリア病、キンモンホソガ等防除のため、落葉を集めて必ず処分する。

施　肥
積雪後、地面の凍り気が引けたらできるだけ早く実施しましょう。（４月20日頃まで）
（樹勢や花芽状況を確認し、発根量を加減する）

接　木
マルバ台の園では、高接病の発生に注意する。
発病樹の根から穂木を採取する。入手困難なときは、マルバに高接きされ４～５年以上健全に育成している樹から採取する。

苗木の定植
1. 植穴は大きめに掘り、堆肥10kg、苦土カンカル0.5kg、ようりん１kgを施用し土壌と混和する。
2. 苗木は、深植え（接ぎ木部位を埋めないよう）に注意する。
3. 香嘉よう乾燥しやすいので、植穴へ入り込ませる。また、根ワラやポリなどでマルチングすると生育が安くなる。

５月

マメコバチの放飼
1. 開花１週間後の晩前散布が終わった日の２～３日後に冷蔵庫から出し、園地放置する。（放置後の管理もこまめに行う）。
2. 発芽には、昼の地盤を含めて水分調節を図り、さらに防風網の内側には深さ40cm程度の穴を掘り土取り場をつくる。

人工授粉
1. 人粉の期間には実施する。
2. 好適花粉がない場合は採蕊状から開花直後までの花を採取し、開約して使用する。

摘花作業
1. 人手による摘花
花芽状況を障害を考慮し、摘花等が不要な花芽を中心に摘み取る。
2. 薬剤摘花
石灰硫黄合剤100～120倍液または、エコルーキー100～150倍液を満字の満開から１～２日後と摘花等の満開日に１～２回散布する。

小袋掛け
できるだけ早く実施する。

６月

摘果剤の散布
ふじは８mm前後になったら実施する。
※ミクロデナポン水和剤1,200倍液を10ａ当たり500リットル散布する。

成り枝の誘引
わい化や、若木などの樹勢が強い成り枝や斜立した主枝は６月10日～20日を目安に、ハウスバンドなどで誘引する。

摘果・仕上げ摘果
ふじは４段階に１果を目安に成らせる（樹勢により調節）。
早期とって、３～４年枝の頂芽に成らせる。枝も成った果枝は落葉が多くの成らせない。全般に成らせすぎの傾向が見られるので、３回以上は見直しを要する。果実１個に葉が５個必要となる「早さより量さが重要」。

追　肥
樹勢、着果量を元で、必要に応じて実施する（６月20日頃まで）。
樹勢の強い園は追肥をしない。

袋掛け
袋掛けをする前に、もう一度着果量の見直しをする。
すす斑予防のため、薬剤散布後早めに実施する。

７月

徒長枝の整理
主幹、主枝、亜主枝から出ている不要なものを間去する。

無袋の見直し摘果
小玉果・奇形果・味の悪い「オドリリンゴ」果は落とす。

殺菌剤散布
白斑病罹災園地及び褐斑病により早期に落葉した園は、フロンサイドSC（フロアブル）を重ねる。ただし、土壌施注器による施注は予防的効果が極端に低下する。

支柱入れ
樹勢判断まで学ばんるよう、こまめに行う。（風害日は、日ヤケに注意
支柱入れはＳＳの逆方に支障がないよう園約を徹底する。

落葉防止剤（つがる・未希ライフ・さおうなど）
ストッポール液剤1,000倍（開花・展葉前４葉）を収穫15～25日前を目安に散布する。
葉縁みは散布後４～５日後から約10ある。なお**散布後７日間は収穫しできないので**注意する。10ａ当たり散布量は330～400ℓとする。
つくねいもに対して薬害の発生があるので、ドリフトには十分注意する。

８月

ふじの除袋
中袋の色によって、除袋のタイミングが異なる。
①中袋が青の場合：外袋をはぎ、３～４日空けてから中袋をはぐ。
②中袋が赤の場合：外袋をはぎ、４～７日空けてから中袋をはぐ。

一発除袋の留意点
①果実の温度が十分温まる11時～14時頃に行う。
（果実の温度が冷たいうちに除袋しない）
②開花後満日で以下、または最高気温が25℃以上の日は避ける。
③除袋後に雹天が２～３日続く日を選んで除袋する。
④除袋付おより除袋時に葉裏みを行なない。
（除袋後４～５日したから徐々に葉裏みを行う）
⑤雨上がり後果実が濡れている間や、明けすぐ気温が低いときは除袋しない。
⑥除袋時期の目安は９月下旬頃とする。

中・晩生種の着色管理（葉摘み）
９月中旬頃から始め、10月に入ってから本格的に実施する。
（一般に多く摘まず、徐々に摘む）
葉の取りすぎは、着色不良や糖度不足を招くので特に注意する。
（実の方で着色させるようにする）

収　穫
収穫適期を見極める。また、収穫したりんごは速やかに冷蔵施設に入庫する。

野ネズミ対策
園地をきれいにし、野ネズミの密度が高い園地では忌避と駆除を平行で実施する。
①忌避剤：アンレス、キピケン、フジワン粒剤など
②殺鼠剤：ＺＰなど

害虫対策
苗木は支柱を立てて、枝を縄などで結束する。成木では、雪害を受けそうな枝には支柱を入れる。冬期間は、雪は踏んうちに雪下ろしを行い、雪中の枝先は雪の新しいうちに抜きおける。雪の比ボによって折れたり裂けたりする恐れのあるものは、早めに切り取り、バッテリーを塗布する。
また、雨雪貿材（融雪促進剤）の準備も怠れずに行う。

９月～

収穫前の規制に注意

散布する農薬の農薬使用基準（収穫前日数・年間使用回数）をよく確認しましょう。早生種など要注意！

- ＦＲＡＣコード及びＩＲＡＣコードは、同系統の農薬を同じ記号で分類したものであり、このコードを参考に、異なる系統の農薬でのローテーション散布を行い、耐性及び拮抗性回避に努める。
- 使用残りの薬液や散布器具の洗浄液を池や川などに流入させない。
- 使用した薬剤の空びん、空袋は適正な方法で処理する。

殺菌剤の適用表

薬剤名	FRACコード	倍数	農薬使用基準 使用時期	年間使用回数	腐らん病	モニリア病	黒星病	うどんこ病	黒点病	すす斑・すす点病	炭そ病	褐斑病	輪紋病
ベフラン液剤	M7	1000 1000 1500	休眠期 展葉期 収穫前日まで	6回以内 （開花期以降は3回以内）	C	C	○	○				○	○
SDHI剤 オルフィンフロアブル	7	4000	前日	3			○	○	○				
SDHI剤 ネクスターフロアブル	7	1500	前日	3			○	○	○				
SDHI剤 フルーツセイバー	7	2000	前日	3			○	○	○				
SDHI剤 カナメフロアブル	7	4000	前日	3			○	○	○			△	○
SDHI剤 パレード15フロアブル	7	2000	前日	2			○	○	○				○
ミギワ20フロアブル	利回C	4000	前日	3			○	○	△				
ユニックス顆粒水和剤	9	2000	前日	4			○	○	△				
テラフロアブル	M9	1500	80	3			○		△	○			
ダニ剤 チオノックフロアブル	M3	500	30	5			○	○	○	○	○	○	○
ダニ剤 トレックスフロアブル	M3	500											
ダニ剤 ジマンダイセン水和剤	M3	600	30	3			○		○	○	○	○	
ダニ剤 ペンコゼブ水和剤	M3	600	30	3			○		○	○	○		
アントラコール顆粒水和剤	M3	500	45	4			○		○	○	○	○	
パスポート顆粒水和剤	M5	1000	45	3			○		○	○	○	○	○
ラビライト水和剤	1 M3	500	30	1	C		○		○	○	○	○	○
有機銅剤 キノンドー顆粒水和剤	M1	1000	14	4			○		○	○	○	○	○
有機銅剤 オキシンドー水和剤	M1	1200	14	4			○		○	○	○	○	○
オキシラン水和剤	M4 M1	500	14	4			○		○	○	○	○	○
アリエッティC水和剤	M4 P7	800	前日	3			○			○	○	○	○
ダイパワー水和剤	M7 M4	1000	前日	3			○			○	○	○	○
コナケシ顆粒水和剤	U6	4000	7	2				○					
ポリオキシンAL水和剤	19	1000	3	3						○			
オーソサイド水和剤	M4	800	前日	6							○	○	
トップジンM水和剤	1	1000 1500	前日	6	C C								○
ベンレート水和剤	1	2000 3000	前日	4	C C								○
ストライド顆粒水和剤	M11	1500	前日	3							○	○	

○、□：本品防除でも防除として適用するもの。
△：○印の病害に適用した場合、防除の必要がないもの。
加信商、褐斑病：には多発条件下では防除剤として適用しないもの。
ダイパワーは開花期以降の年間使用回数、ストライドは開花後の年間使用回数。
炭酸カルシウム水和剤：クレフノン、アプロン

殺虫剤の適用表

薬剤名	IRACコード	倍数	農薬使用基準 使用時期	年間使用回数	モモシンクイガ	ナシヒメシンクイガ	リンゴカクモンハマキ	ミダレカクモンハマキ	ハマキムシ類	キンモンホソガ	ギンモンハモグリガ	クワコナカイガラムシ類	アブラムシ類
有機リン剤 エルサンボ水和剤	1B	1000	収穫前日まで	3回以内	○	△							○
有機リン剤 ダーズバンDF	1B	3000	30	1						○			
有機リン剤 ダイアジノン水和剤	1B	1000	30	4	○	○							○
有機リン剤 スミチオン水和剤	1B	900	30	3	○	△						○	○
有機リン剤 スプラサイド水和剤	1B	1500	30	2	○	○						○	○
有機リン剤 サイアノックス水和剤	1B	1000	14	1	○	○						△	○
IGR剤 アプロードフロアブル	16	1000	30	2								○	○
IGR剤 デミリン水和剤	15	4000	30	3						○	○		
IGR剤 ノーモルト乳剤	15	4000	前日	2						○	○		
IGR剤 カスケード乳剤	15	4000	14	2			○	○					
IGR剤 アタプロンSC	15	4000	7	4			○	○					
IGR剤 ロムダンフロアブル	18	3000	前日	2					○				
BT剤 フィブスター顆粒水和剤	11A	3000	前日	2					○				
BT剤 バイオマックスDF	11A	3000	前日	2					○				
ジアミド剤 サムコルフロアブル	28	5000	前日	3	Cd	Cd	Cd						
ジアミド剤 エクシレルSE	28	5000	前日	3	Cd	Cd	Cd						
ジアミド剤 テッパン液剤	28	2000	前日	2	Cd	Cd	Cd						
ジアミド剤 フェニックスフロアブル	28	4000	前日	2	Cd	Cd	Cd						
ジアミド剤 ヨーバルフロアブル	28	10000	前日	2	Cd	Cd	Cd						
ネニコ剤 ディアナWDG	5	10000	前日	2	Cd	Cd	Cd						
ネニコ剤 デリゲートWDG	5	10000											
オリオン水和剤	1A	1000	前日	2	○	○						○	
ウララDF	29	4000	14	2									○
キラップフロアブル	29	4000	14	2									○
トランスフォームフロアブル	4C	4000	前日	3									○
コルト顆粒水和剤	9B	6000	前日	3									○
ネオニコ剤 バリアード顆粒水和剤	4A	4000	前日	3	○	○						○	○
ネオニコ剤 ダントツ水溶剤	4A	4000	前日	3	○	○						○	○
ネオニコ剤 モスピラン顆粒水溶剤	4A	4000	前日	3	○	○						○	○
ピリダゾリノン剤 バイスロイドEW	3A	2000	7	4	○	○						○	○
ピリダゾリノン剤 サイハロン水和剤	3A	2000	7	3	○	○						○	○
ピリダゾリノン剤 アーデントフロアブル	3A	2000	前日	3	○	○						○	○
ピリダゾリノン剤 イカズチWDG	3A	1500	前日	2	○	○						○	○

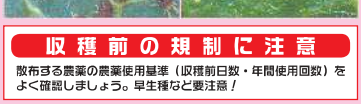
○：本防除でも防除として適用するもの。
△：○印の害虫に適用した場合、防除の必要がないもの。
a：開花１週間後に適用する。　b：落花直後に適用する。　c：７月半ばに適用する。
d：７月半ばより８月上旬に適用する。
（注意）１．オリオン水和剤は薬果のおそれがあるため開花後１か月間は散布を避ける。
２．ピレスロイド剤は８月中旬までの使用を適け、その後もできるだけ使用回数を制限する。

殺ダニ剤の適用表

薬剤名	IRACコード	倍数	農薬使用基準 使用時期	年間使用回数	リンゴハダニ	ナミハダニ
マシン油乳剤 ハーベストオイル	ー	200	展葉期（発芽後３週間まで）	ー	○	
マシン油乳剤 トモノールS	ー	200	展葉期（発芽後３週間まで）	ー	○	
マシン油乳剤 アタックオイル	ー	200	展葉期（発芽後３週間まで）	ー	○	
マシン油乳剤 スプレーオイル	ー	200	展葉期（発芽後３週間まで）	ー	○	
サンマイト水和剤	21A	1500	収穫21日前まで	1回	○	
パックフロアブル	10B	2000	14	2回以内	○	
エコマイト顆粒水和剤	22	2000	7	1	○	○
オマイト水和剤	12C	750	3	1	○	○
コロマイト乳剤	6	1000	前日	1	○	○
マイトコーネフロアブル	20D	1000	前日	1	○	
ダニサラバフロアブル	25A	1000	前日	2	○	
スターマイトフロアブル	25A	2000	前日	1	○	
ダニコングフロアブル	25B	2000	前日	1	○	
ダニオーテフロアブル	未設定	2000	前日	1	○	○

※ダニサラバ、スターマイト、ダニコングは合わせて年１回以内の使用とする。

（注意）１．サンマイトは落花直後に使用しない。
２．ダニオーテは新剤（有機新規及びオキシランと混用しない。銅剤を散布した後はダニオーテを使用しない。ダニオーテ散布後に銅剤を使用する場合は10日以上散布期間をあける。
３．コロマイトは６月下旬までの使用を避ける。
４．オマイトは７月下旬までの使用を避ける。



遠布剤の適用表

薬剤名	FRACコード	倍数	農薬使用基準 使用時期	年間使用回数	腐らん病	輪紋病	褐斑病
フランカットスプレー	19	ー	剪定時及び病害部削り取り直後	5回以内	○		
バッチレート	M1	原液	剪定時及び病害部削り取り直後	3	○		○
トップジンMオイルペースト	1	原液	剪定時及び病害部削り取り直後	3	○		
トップジンMペースト	1	原液	剪定時及び病害部削り取り直後	3		○	

トップジンMオイルペーストとトップジンMペーストは合わせての年間使用回数。

カルシウム剤の使い方

カルシウム欠乏（ビターピット）を防止し、貯蔵性を高めるためカルシウム剤を散布する。

品名	倍数	高濃度倍数
スイカル	300倍	
セルパイン	400倍	
カルハード	2,000倍	1,000倍
スットピットII	500倍	

◇ジマンダイセン、カルシウム剤は尿素や葉面散布剤と混用すると薬害が発生する可能性があるので混用は避ける。また、高濃度、高温時の散布で、薬害が発生しやすいので注意する。

https://www.ja-goshotsugaru.com/
指導課 ☎27-3303　本店グリーンセンター ☎27-3330　北グリーンセンター ☎39-5050